



KAGOSHIMA Y'S MEN'S CLUB

No.375 2022
鹿児島ワイズメンズクラブ

3
月号

国際会長 : Kim Sang-chaе [韓国] 世界とともにワイズメン Y's Men with the World
アジア会長 : 大野 勉 [神戸ポート] 100年を越えて変革しよう Make a difference beyond the 100th
西日本区理事 : 新山 兼司 [京都トップス] Challenges for the future 未来への挑戦
九州部部长 : 森 律子 [八代] 小さなことにも大きな愛を込めて。そして未来へ
With great love for the little things And towards the future...



SDG's を鹿児島で!

It's time to think about SDG's in Kagoshima.

鹿児島クラブ会長 中堀 清哲

2月例会報告

コロナウィルスのオミクロン株の蔓延により、2月例会はオンライン=ZOOM例会となりました。今回は「ダレ止め例会」とし、焼酎やビール片手にざっくばらんに鹿児島クラブ再興について語り合いました。やはり、具体的に活動せねばならないということで幾つかの案が出されました。過去にお呼びした卓話者をもう一度招へいし、学びを深めることやホームレスの人々におにぎりを作って配ること、楽しい例会を開催することなどです。YMCAとの更なる協働は言うまでもありません。他に皆さんの近況報告もあり、熱く語るうちにあっという間に時間は過ぎまして、閉会となりました。今回出された意見を具現化してEMCに繋げたいと思います。

鹿児島クラブ 中堀 清哲



TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT



会長通信

鹿児島クラブ会長 中堀 清哲

SDG's を鹿児島で!

It's time to think about SDG's in Kagoshima.



2022年2月24日、ロシアがウクライナに侵攻しました。力づくで他の独立国を干渉するという前近代的で野蛮な行為をプーチン大統領は強行しました。過去に二度の世界大戦を経験した世界は灰燼から復興し、グローバル化を促進して相互依存を高めてきました。戦後77年間、人類が築いてきた平和秩序が壊されたも同然であるのです。国際社会はこのロシアの蛮行を決して許してはならないし、結束してこの戦争を終結させなければなりません。しかし、核兵器を保有した国際連合の常任理事国が秩序を乱したのですからこの問題解決は容易ではありません。私は高校生時代に習った世界史の教材を引っ張り出し、改めて東ヨーロッパの複雑な歴史を再確認しました。ロシアとウクライナは共に10世紀から約250年繁栄したキエフ公国を源とします。1240年キエフ公国はモンゴル族のキプチャック=ハン国に滅ぼされます。しかし、ウクライナの弟分的だったロシアは1480年にモンゴルからの独立を果たします。一方、ウクライナはモンゴルの支配の後、ハンガリー、リトアニア、ポーランド、モルドバ、トルコ、そして強大化したロシア帝国やオーストリア帝国に支配されます。第1次世界大戦では主戦場になり、帝政ロシアと革命ロシア（ソビエト）の戦争に巻き込まれたりしながらも1917年漸くウクライナ人民共和国として独立を果たしました。1937年第二次世界大戦が勃発するとソビエト連邦に組み込まれました。1941年に独ソ戦開始で、ナチス=ドイツに蹂躪され、約500万人（推定）もの人が亡くなったといわれています。第二次世界大戦後はソビエト連邦内のウクライナ社会主義共和国としてウクライナ人の単一国家が成立しました。1991年ソビエト連邦崩壊により真の自由を得た独立国となったのです。782年ぶりにウクライナ人独自の独立国家が誕生したのですが、ほんの30年後の先月から再びロシアの侵略を受けているのです。1274年と1281年に日本もモンゴルの侵略の危機に遭いますが、四方を海に囲まれた日本は独立を保ち、1945年アメリカのGHQに占領されるまで一度も異民族に支配された事はありません。1905年の対ロシア戦争では薩摩出身の東郷平八郎さん率いる連合艦隊がロシアのバルチック艦隊をせん滅しましたので独立を守れました。こうした我々日本人からするとウクライナは想像を絶する混乱の歴史の場所なのです。こういった背景も理解しつつ物事には対処すべきであろうと思いますが、21世紀の今になって今になって一人の独裁者によって世界が翻弄されるとは残念至極です。

SDGsを推進していかなければ人類全体が危機に瀕するであろうといわれている今は戦争などやっている場合ではないのです。いい加減、歴史に学んで人類は進化せねばならぬ時であると思うのです。今はロシアですが、1960年代はアメリカがベトナムで何をしたか、1930年代は日本が満州で何をしたか、それ以前は欧州諸国がアジアやアフリカで何をしたかを忘れてはならないのです。脱炭素社会構築に失敗し世界の平野が海に沈んで初めて人類は何か気付くのでしょうか。そうであってはなりません。そうさせないが為にあるのがワイズメンズクラブのモットーであるはずで。



理事通信

西日本区理事 新山 兼司

Challenges for the future
未来への挑戦



2022年2月3日、国内で新型コロナウイルスの新規感染者が9万人台に突入しました。増加の勢いに鈍化の兆しがあるものの、流行「第6波」の収束は見通せません。切り札の飲み薬にも課題がある中、昨夏の第5波では少なかった高齢者への感染も増えつつあり、医療関係者の方々は危機感を募らせています。変異株のオミクロン株が主流となった第6波は驚異的な速さで拡大しました。ピークはいつ訪れるのでしょうか？

西日本区内1月・2月開催予定をされていました、部会や周年記念例会は中止、又は延期となりました。このような状況の中ではありますが、嬉しいニュースとオンラインでの活動等のご報告をさせていただきます。嬉しいニュースですが、西日本区各クラブ会長様には、度重なる国際選挙の投票の呼びかけに、ご協力を頂き2023年～2024年度アジア太平洋地域会長に東日本区・川越クラブの利根川恵子ワイズに決定しました。誠にありがとうございます。これからのご活躍に期待し、西日本区の皆様のご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。又、国際会長には、デンマークのウルリック・ローリッドセンワイズに決定しました。おめでとうございます。以上、2023年～2024年度の国際選挙の結果をご報告いたします。

2022年2月4日、西日本区メネット事業あり方委員会オンラインにて開催。

次年度より西日本区の常置委員会として西日本区ワイズメネット委員会が発足します。ついては、西日本区ワイズメネット委員会規則（案）について話し合われました。

2022年2月5日、東西日本区理事・書記懇談会 オンラインにて開催。

大久保東日本区理事とは、同期理事として毎月1回懇談会を開催し、情報交換をしています。新型コロナウイルス感染拡大により、両区の予定していた活動の中止や今後の対応策など情報交換をしました。

2022年2月7日、西日本区大会実行委員会 オンラインにて開催。

新型コロナウイルス感染拡大により、今年度の西日本区大会は、2022年6月10日前夜祭・本大会を6月11日単日開催となりました。プログラム・予算の検討会が取り行われました。

2022年2月8日、次々期西日本区理事選任会議、京都YMCAにて開催。

指名委員会委員長である古田直前理事が約1年前より次々期西日本区理事選任に関して各部又は、各クラブにてお願いをされていましたが、任務を遂行することがうまく行かず、お膝元の京都部にて対策会議を開催することとなりました。緊急を要することとなりましたが、京都部の結集にて、次々期西日本区理事を選出できるよう頑張ります！

2022年2月12日、アジア太平洋地域MYM(中間評議会) オンラインにて開催。

今年度も半期を終え、アジア太平洋地域の各区理事及事業主任さんから半期報告会が開催されました。

2022年2月14日、第7回東西交流会実行委員会 オンラインにて開催。

2023年2月4日～2月5日に開催される第3回東西日本区交流会のプログラム(案)について話し合われました。今後毎月1回実行委員会が開催されます。素晴らしい東西交流会になるでしょう!皆様の御参加を宜しくお願い致します。

2022年2月19日、西日本区次期会長・主査研修会の準備会議 オンラインにて開催。

新型コロナウイルス感染拡大により西日本区次期会長・主査研修会は2022年3月12日単日開催となりました。ZOOMによるオンライン併用の研修会になる為、研修内容の再確認、及び実りのある研修会が出来るよう準備会議が行われました。

2022年2月22日、西日本区理事キャビネット会 オンラインにて開催。

毎月1回、必ず開催している理事キャビネット会も今月は、オンラインにての開催となりました。西日本区内の動きや各部の活動など何か問題は起きていないかなど話合っています。新型コロナ感染拡大により西日本区内の活動が出来ず、重苦しい雰囲気になっておられる会員さんもおられるようですので、2022年3月26日(土)西日本区オンライン交流会を開催することになりました。詳細は、3月上旬にメールにて各部長・各会長様へ送ります。お楽しみに!

2022年2月25日、ワイズ将来構想特別委員会 オンラインにて開催。

①パーパスブランディング今後の進め方について検討。②西日本区オンライン交流会について説明。③ワイズアカデミー復活、LD制度の改革など検討。特に上記①～③について話し合われました。

03 企画例会報告 Planning meeting report

日時：令和4年3月8日 火曜日
19:00～20:00
場所：Zoom
出席者：神村、中堀、園屋、徳田、新内、松永

02 定例会報告 Planning meeting report

日時：令和3年2月22日 火曜日
場所：鹿児島国際交流センター
出席者：7名
司会者：松若

2月例会の記録

クラブ在籍者	9名
出席者	6名
メネット	0名
ゲスト	0名
ビジター	0名
メイクアップ	1名
2月出席率	77.8%



今月の樹

ボケ(木瓜)

梅と違って、開ききらない風情や、艶やか過ぎない色合いが、おぼこ娘のようで可愛い。中国原産で平安時代に渡来した。朱、白、ピンクなど、沢山の園芸品種がある。

3-4月に沢山の花を付け、7-8月に比較的大きな果実を付ける。雌雄同種である。日本原産のクサボケとは違って地下茎がない。

学名はChaenomeles speciosaで、バラ科ボケ属である。

今月の聖句

わたしは良い羊飼いである。
良い羊飼いは羊のために命を捨てる。

(ヨハネ10章11節)

鹿児島YMCA報告

2022年度に向けて

2022年は鹿児島YMCAにとって大きな変革となる1年になります。2021年度末をもって3年間鹿児島YMCAの総主事として奉職いただいた埜さんが熊本YMCAに帰任することになりました。鹿児島YMCAにYMCA運動の概念を取り入れ、私をはじめとするスタッフの人材育成に力を注ぎ、次の鹿児島YMCA体制を整えるなど多大なる貢献をされました。埜総主事が取り組んでくださったことを、残された私たちスタッフでしっかり引き継いでいきたいと思ひます。なお、埜総主事は3月末をもって熊本YMCAをいったん定年となりますが、4月からは御船町スポーツセンターの副館長として熊本YMCAに残ります。

大きな変革として、先日3月7日に開催された常議員会において2022年度の事業方針案が満場一致の賛成をもって採択されました。2022年度の大きな方針として、もう一度会員組織としての整備を行い、会員によるYMCA運動を盛り上げていくことに取り組んでまいりたいと思ひます。

私自身、4月より埜総主事の後任としてリーダーシップを持って鹿児島ワイズの皆様と共にYMCA運動を盛り上げ共存共栄し共に発展する新しい関係性を構築していきたいと思ひます。

2022年4月よりもうひとつ大きな変革があります。YMCA運動の担い手として、現在チアダンスプログラムのスタッフとしてこれまで2年間従事している大平さやかさんを常勤職員として採用します。ポジティブで明るい性格と共に、教師としての経験を活かして子どもたちとの関わりに定評があります。YMCAへの理解を深めるための研修にも参加し、YMCA職員として学びと経験を積んできました。近いうちに鹿児島ワイズメンズクラブの例会に連れていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

またまだ新型コロナウイルスのまん延が続いていて不安が消えない日々ですが、希望をもって新しい年度に向かっていきましょう。

基本方針	指針	具体的計画	2022年度計画
I 人材育成	将来を担うリーダーシップを育成するとともに、全国YMCAとの協働を図り、人材の獲得と人材の交流を行う。	①将来を担う、理事・評議員・常議員の人材確保を進めていく。 ②チアダンススクールの拡大を見据え、新しい専門スタッフの獲得・採用を進めていく。 ③チアダンススクールの指導に当たるリーダー獲得と育成を計画的に実施していく。 ④新しい、事業を開発・推進するための専従スタッフの採用・配置を進めていく。	①職員、レイパーソンの積極的な研修参加 ②西日本地区YMCAと協力して、人材交流・育成に取り組む ③常勤職員の採用
II 施設計画	将来の基幹事業となるプログラムを開発するとともに、事業展開を考慮して施設開発を行う。	①新しい活動拠点を獲得し、事務所移転、新事業を開始するための準備を進める。 ②新規事業を決定し準備に取りかかる。 ③指定管理制度の研究をはじめ、鹿児島県並びに鹿児島市で公募される指定管理施設の可能性を見出す。	①チアダンスプログラムの多角的な活動拡大 ②山梨YMCA協働事業プログラム推進 ③会員が集まれる場所づくり計画立案
III ブランディング・広報	全国YMCAの戦略を前提に、ブランディング推進を図るとともに、地域に浸透を図る広報計画を立て実行する。	①現在実施している法人賛助会でのボランティア運動・活動を検証し、新たな活動を模索する。 ②プログラム会員から賛助会員へつなげるためのMBD(Membership by Design)に取り組む。 ③会員向け配布のニュースレターやメッセージ性の高い配布物を検討し刊行する。	①チャリティーラン、ピンクシャッター、SDGs活動を3つの柱に据え活動する ②水の安全運動、年末募金などに積極的に取り組んでいく ③メディアへのアプローチ、会報誌
IV リソースモビライゼーション&ファンドレイジング	YMCA運動の基本となる募金文化を醸成するとともに、将来を支えるレイリーダーシップの獲得、要請を進めていく。	①YMCA運動の基本となる募金文化を醸成するとともに、将来を支えるレイリーダーシップの獲得、養成を進めていく。 ②施設建設を前提としての募金活動を計画し開始する。 ③法人賛助会員並びに個人会員の獲得を計画して実行する。 ④キリスト教会(教界)との繋がりを深めつつ、協力協働を推進する。	①募金体制の再構築 ②会員募集、管理体制の確立 ③鹿児島キリスト伝道協力会継続参加、本県キリスト教会とのネットワーク強化
V 組織・政策	組織構造を見直し、ガバナンスの改定や事業推進のためのシステムを見直し推進する。	①会則、定款を時代に合わせて見直ししていく。 ②全国YMCAの基準に合わせた組織運営のためのシステム改善を進めていく。 ③西日本地区YMCAとの協働協力を推進し、職員・会員の研修を実施する。 ④組織内の会議会合の持ち方を見直し、活性化を進める。	①鹿児島YMCAの使命についての再検討 ②会則、定款の整備と組織の整備 ③鹿児島YMCA会員大会の設置

最後にウクライナ問題について

日本YMCAでは、軍事侵攻に反対し、平和を求める人々と連帯するメッセージを発信しています。それに伴いウクライナ緊急支援募金を行っています。日本YMCA同盟のサイトから募金に関する情報を得ることが出来ますが、右のQRコードからもアクセスできます。YMCA、ウクライナで検索しても出てきます。4月30日まで行っております。



鹿児島YMCA 新内 博之